

## 発刊に寄せて



早良区長  
中川 伸司

早良区のルーツは、区名の由来にもなっている旧早良郡にあります。

大正期から昭和期にかけて福岡市に編入された西新町（大正11年）、原村（昭和4年）、田隈村（昭和29年）、金武村の一部（昭和35年）、早良町（昭和50年）という旧早良郡を形成していた町や村が現在の早良区を形づくっています。

旧早良郡の中心地として発展してきた北部地域は、昭和56年の地下鉄空港線の開業や市政100周年を記念して開催されたアジア太平洋博覧会の主会場となった西部臨海部開発（シーサイドももち）などと一体となったまちづくりによって、西部の広域拠点として確固たる地位を占めています。

中南部地域は、昭和40年代初頭頃までは、のどかな田園風景がひろがる市西部の近郊農業地域でしたが、第2次（昭和40年～昭和48年）の高度経済成長の波に乗り宅地化が急速に進み、今日の住宅市街地に変貌しています。

豊かな自然と歴史に抱かれた南部地域は、往時の名残をとどめつつ、自然環境と調和した住宅地として、また、市南部の市民の憩いの場として発展してきました。

このたび、旧早良郡や早良区の昔の町並みや風景、行事など、地域や人々の暮らしの移り変わりを写した写真集「早良区お宝写真今昔物語い～ね！！」を発刊しました。

古き良き時代の旧早良郡や早良区の原風景と現在の姿を対比させたこの写真集を介して住民間の会話が弾み、地域の連帯感や絆がなお一層深まること、また、若い世代や転入者の方々には、自分が暮らす地域の歴史を知っていただくことで、世代間の交流や地域への愛着をもっていただくことを心から願っています。

最後に本写真集の発刊にあたり、貴重な写真をお寄せいただきました皆様方に謹んで御礼申し上げます。